

2018年7月1日

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 7月えんだより

7月の聖句 「主よ、…わたしたちにも祈りを教えてください。」

ルカによる福音書 11章1節

梅雨の季節の長雨が大地を潤し、来る夏を感じる頃になりました。すっかり日々の生活に慣れた子ども達は、これから始まる夏の遊びもきっと没頭して取り組む姿が目に見えます。

さて、過日は大きな地震が発生して、肝を冷やした方も多かったのではないのでしょうか。教育学者の汐見稔幸氏は、「日本の様々な組織で一番避難訓練を行っているのが保育園である」とコメントされた通り、月に一回以上実施している避難訓練通りに、子ども達は部屋の中心に集まり、場所によっては、園庭に避難することが冷静になされました。通信手段も交通手段も、自然災害を前にしては、思い通りにはいかず、自分で自分の命を守るために、行動の評価と実践を繰り返していくことが大切であると改めて感じました。

私たちは、このような災害に遭い、苦境に立たされた際に「祈る」ことをします。祈る相手は目に見えない存在に祈ることが殆どであるかと思えます。神様であったり、仏様、ご先祖様であったり、祈る対象は別にして、心の内から震える気持ちを唱えるのではないのでしょうか。祈りとはそうした自分の心に正直になり、自分の言葉で祈ることが大切であろうかと思えます。しかし、その祈りの殆どは、どこか自分の都合や自分の願いを叶えてもらうための祈りが多いかと思えます。

今月の聖句は、常に祈るイエスの姿を見ていた弟子達が、イエスに祈りを教えて欲しいと願う箇所があります。「祈り」は自分が真っ先ではなく、人が中心ではなく、まずは命を与えてくださった神様に感謝の祈りをささげ、神様の思いが何であるかを考え、御心とご計画のために祈るのです。謙遜と感謝の心を忘れず、自分の罪を認めて祈るのです。つまり心の中の全てを神様の前に素直にさらけ出すことともいえます。そしてそれが、神様の御心かを対話する行為であるともいえます。

子ども達も園の生活では、一日の始まりに、食事の前に祈ります。常に神様を信じて祈りを捧げているとはいえません。しかし、何かが起きたから祈るのではなく、自分の為のみ願うのではなく、自らの心の省みや振り返りを行うことは、現代の社会の中ではとても重要なことであろうと思うのです。私はキリスト教という宗教にではなく、子ども達一人ひとりが謙遜と感謝の思いを持って生き、大きな支えがあることに安心して歩んで欲しいと願います。

7月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	いいきもち	やってみる
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> *夏の自然にふれ、遊びや生活を楽しむ *水・砂・泥の感触に親しむ 	<ul style="list-style-type: none"> *神様の創られた自然に触れ、親しむ *土、砂、水に存分に触れて、心も体も解き放って遊ぶ。 *健康に過ごすための生活習慣を身につける。
讃美歌	どんどこんどこ こども改 109	きみがすきだって こども改 104